



2023年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年11月10日

上場会社名 株式会社パピレス
コード番号 3641 URL <http://www.papy.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松井康子

問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務・経理部長 (氏名) 須永喜和

TEL 03-6272-9533

四半期報告書提出予定日 2022年11月11日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	9,786	11.1	114	65.1	404	17.2	215	12.0
2022年3月期第2四半期	11,005	11.4	328	73.1	345	71.4	192	76.5

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 290百万円 (46.5%) 2022年3月期第2四半期 198百万円 (75.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	23.51	23.42
2022年3月期第2四半期	19.52	19.43

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	14,304	9,076	62.9
2022年3月期	13,830	8,771	62.9

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 9,001百万円 2022年3月期 8,703百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		10.00	10.00
2023年3月期		0.00			
2023年3月期(予想)				10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,870	5.7	824	13.9	843	30.2	483	35.6	52.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	10,326,880 株	2022年3月期	10,326,880 株
期末自己株式数	2023年3月期2Q	1,142,917 株	2022年3月期	1,182,894 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	9,154,036 株	2022年3月期2Q	9,846,621 株

(注)「期末自己株式数」には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式(2023年3月期2Q 150,000株、2022年3月期 190,000株)が含まれています。また、役員向け株式交付信託が保有する当社株式を、「期中平均株式数」の計算において控除する自己株式数(2023年3月期2Q 179,945株、2022年3月期2Q 219,945株)に含めています。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものです。

また、当社グループの事業は電子書籍事業のみであり、重要な事業拠点も当社のみとなっているため報告セグメントはありません。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、経済社会活動を回復させる取り組みが進んでいることにより、景気の持ち直しがみられます。ただし、国際金融資本市場の変動や原材料価格の高騰等を背景とした海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクが存在しています。

電子書籍の市場規模は、インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2022」によると、2021年度は5,510億円（うち電子書籍市場規模は5,257億円、電子雑誌市場規模は253億円）と推計されており、新型コロナウイルス感染症の長期化や、巣ごもり消費による特需の反動減が影響を与えていますが、社会的な大ヒットとなった作品の人気の高まりなどの影響を受け、ゆるやかな拡大傾向が続いています。

電子書籍の市場環境は、参入企業も多く、厳しい競争が続いています。コンテンツ需要の増加による、出版社等のコンテンツホルダーからの仕入コストの上昇や、集客を強化するための、広告宣伝や販促コストも拡大傾向となっています。

このような環境の中で、当社グループは、顧客第一主義の基本理念に基づく、サービスの向上及び他社との差別化を図るためのブランド戦略施策、並びに中長期的な事業拡大を目的とした広告宣伝施策を積極的に実施しています。また、ユーザーへの還元を目的とした販売促進施策も積極的に行いました。さらに、将来市場が拡大すると予測される英語圏や中国語圏を中心とした海外事業への投資強化、及び次世代コンテンツの開発並びにオリジナルコンテンツにも取り組んでいます。

この結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は9,786百万円（前年同四半期比11.1%減）、営業利益は114百万円（前年同四半期比65.1%減）、経常利益は404百万円（前年同四半期比17.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は215百万円（前年同四半期比12.0%増）となりました。

以下、当第2四半期連結累計期間における主な活動状況を報告します。

(集客施策)

「Renta!」の会員数800万人突破を記念して、割引やポイント還元などが適用されるクーポンの配布、及び人気作品がお得に読めるRenta!限定レンタルキャンペーンを実施しました。

また、草薨剛さんと神木隆之介さん共演の新TVCM「Renta!レンタルチェック」篇の放映及びRenta!提供のミニ番組「マンガ、鬼ほど好きなんで」の放送を開始しました。

さらに、オリジナルアニメーションコミック「アニコミ」のYouTubeチャンネルを開設しました。

(サイト改良施策)

割引やポイント還元などが適用されるクーポンサービス機能をリリースしました。

(オリジナルコンテンツ施策)

「Rentaコミックス」のオリジナルマンガレーベル「COMICスピア」よりリリースする作品について、「小説家になろう」と共同で、「コミカライズ原作大賞 第2回」コンテスト及び「ムーンライトノベルズ」と共同で、「オトナ女子コミカライズ原作大賞」コンテストを実施しています。

(次世代コンテンツ開発施策)

縦スクロール型のコミック「タテコミ」の拡充及びマンガにモーションと音声を付加し、スマートフォンでの視聴に最適のタテ型アニメーション形式の動画コンテンツ「アニコミ」の制作体制の強化を進めています。また、3DCGゲームをタテコミ形式にコミカライズした新コンテンツ「Gamtoon」の配信を開始しました。

(海外展開施策)

海外の直営販売サイトの「英語版Renta!」、「中国語繁体字版Renta!」の売上拡大を目指して、集客、サイト改良、コンテンツの拡充を進めています。また、海外取次会社AAG（アルド・エージェンシー・グローバル株式会社）を通して、英語及び中国語のコンテンツ取次販売を行っています。直営以外の27の海外販売サイトにも展開し、販路拡大が進んでいます。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は14,304百万円（前連結会計年度末比3.4%増）となりました。

流動資産は13,289百万円（前連結会計年度末比3.4%増）となりました。主な内訳は、現金及び預金が11,155百万円、売掛金が1,814百万円です。

固定資産は1,015百万円（前連結会計年度末比3.2%増）となりました。主な内訳は、投資その他の資産が978百万円です。なお、重要な設備の新設および除却はありません。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は5,228百万円（前連結会計年度末比3.4%増）となりました。

流動負債は5,225百万円（前連結会計年度末比3.3%増）となりました。主な内訳は、買掛金が2,592百万円、前受金が1,457百万円です。

固定負債は2百万円（前連結会計年度末比94.6%増）となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は9,076百万円（前連結会計年度末比3.5%増）となりました。主な内訳は、資本金が414百万円、資本剰余金が885百万円、利益剰余金が9,295百万円です。

当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は62.9%（前連結会計年度末62.9%）となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ249百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末の残高は9,585百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果獲得した資金は124百万円（前年同四半期は161百万円の使用）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益404百万円、為替差益258百万円等によるものです。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は0百万円（前年同四半期比99.9%減）となりました。これは主に、定期預金の預入による支出909百万円、定期預金の払戻による収入909百万円等によるものです。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は93百万円（前年同四半期比82.7%減）となりました。これは主に、配当金の支払額93百万円等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2022年5月13日の「2022年3月期 決算短信」で公表した通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,778	11,155
売掛金	1,880	1,814
コンテンツ資産	17	29
仕掛コンテンツ資産	—	0
その他	176	294
貸倒引当金	△6	△5
流動資産合計	12,846	13,289
固定資産		
有形固定資産	40	36
無形固定資産		
その他	0	0
無形固定資産合計	0	0
投資その他の資産	944	978
固定資産合計	984	1,015
資産合計	13,830	14,304
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,549	2,592
未払金	757	769
未払法人税等	97	197
前受金	1,402	1,457
賞与引当金	116	112
株式報酬引当金	77	25
その他	57	70
流動負債合計	5,057	5,225
固定負債		
その他	1	2
固定負債合計	1	2
負債合計	5,058	5,228
純資産の部		
株主資本		
資本金	414	414
資本剰余金	885	885
利益剰余金	9,173	9,295
自己株式	△1,795	△1,692
株主資本合計	8,677	8,903
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2	5
為替換算調整勘定	23	92
その他の包括利益累計額合計	26	98
新株予約権	28	32
非支配株主持分	39	42
純資産合計	8,771	9,076
負債純資産合計	13,830	14,304

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	11,005	9,786
売上原価	5,543	5,140
売上総利益	5,462	4,645
販売費及び一般管理費	5,133	4,530
営業利益	328	114
営業外収益		
受取利息	1	9
退会者未使用課金収益	1	1
投資事業組合運用益	5	—
為替差益	6	280
その他	1	0
営業外収益合計	17	292
営業外費用		
投資事業組合運用損	—	2
その他	0	—
営業外費用合計	0	2
経常利益	345	404
税金等調整前四半期純利益	345	404
法人税、住民税及び事業税	144	183
法人税等調整額	6	3
法人税等合計	150	186
四半期純利益	194	218
非支配株主に帰属する四半期純利益	2	2
親会社株主に帰属する四半期純利益	192	215

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	194	218
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	2
為替換算調整勘定	3	69
その他の包括利益合計	3	72
四半期包括利益	198	290
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	195	287
非支配株主に係る四半期包括利益	2	2

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	345	404
減価償却費	4	4
株式報酬費用	28	29
投資事業組合運用損益 (△は益)	△5	2
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△2	△1
賞与引当金の増減額 (△は減少)	3	△3
株式報酬引当金の増減額 (△は減少)	25	25
受取利息及び受取配当金	△1	△9
為替差損益 (△は益)	△7	△258
売上債権の増減額 (△は増加)	301	71
棚卸資産の増減額 (△は増加)	3	△12
仕入債務の増減額 (△は減少)	△5	42
未払金の増減額 (△は減少)	△128	7
前受金の増減額 (△は減少)	89	36
その他	△249	△137
小計	401	201
利息及び配当金の受取額	1	9
法人税等の支払額	△565	△87
営業活動によるキャッシュ・フロー	△161	124
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△734	△909
定期預金の払戻による収入	219	909
有形固定資産の取得による支出	—	△0
その他	△23	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△538	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△440	△0
配当金の支払額	△101	△93
リース債務の返済による支出	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△542	△93
現金及び現金同等物に係る換算差額	12	219
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,229	249
現金及び現金同等物の期首残高	11,041	9,336
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,811	9,585

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。